

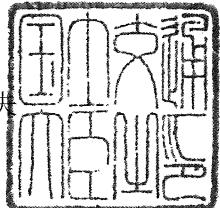
認定書

国住参建第 2553 号
令和 6 年 10 月 31 日

吉野石膏株式会社
代表取締役 須藤 永作 様

国土交通大臣

斎藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号及び同法施行令第 107 条第二号（間仕切壁（非耐力壁）：1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060NP-0516
2. 認定をした構造方法等の名称
片面強化せっこうボード重張／軽量鉄骨下地間仕切壁
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

片面強化せっこうボード重張／軽量鉄骨下地間仕切壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

項 目		製 品 仕 様
① 下地材用面材	上張り材及び下張り材	<p>強化せっこうボード 規格：a から c のいずれかによる。</p> <p>a. 不燃材料認定番号 NM-8615 形状：平板 表面の形状：平滑 端部の形状：スクエアー、テーパー又はベベル 厚さ (mm) : 21 (± 0.5) ~ 25 (± 0.5) かさ比重：0.75 以上</p> <p>b. 不燃材料認定番号 NM-1498、NM-1498-1 (両面薬剤処理ボード用原紙張せっこう板) のうち、ボード用原紙を除いた部分のせっこうの含有率が 95% 以上、ガラス繊維の含有率が 0.4% 以上、ひる石の含有率が 2.5% 以上のもの 形状、表面の形状、端部の形状、厚さ及びかさ比重は前記の a に同じ。</p> <p>c. JIS A 6901 形状、表面の形状、端部の形状、厚さ及びかさ比重は前記の a に同じ。</p> <p>目地部 (一般部) の納まり 上張り材 : a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 突付け張り b. 目透かし張り 目透かし幅 (mm) : 2 (± 0.2) ~ 8 (± 0.8)</p> <p>下張り材 : 突付け張り</p>
② 下地材	上部ランナー	<p>材料名及び規格 : a から m のいずれかによる。</p> <p>a. 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) b. 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3313) c. 溶融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314) d. 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) e. 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) f. 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) g. 一般構造用軽量形鋼 (JIS G 3350) h. 一般構造用圧延鋼材 (JIS G 3101) i. 熱間圧延軟鋼板 (JIS G 3131) j. 冷間圧延鋼板 (JIS G 3141) k. 熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) (マルテンサイト系、フェライト系に限る) l. 冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) (マルテンサイト系、フェライト系に限る) m. 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通省大臣認定-指定建築材料 : MSTL-0064、MSTL-0069、MSTL-0070、MSTL-0362、MSTL-0395、MSTL-0523) 形状・寸法 (mm) : a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. $\square -90 (\pm 0.5) \sim 1,000 \times 35 (\pm 1.0) \sim 75$、厚さ 0.4 ($\pm 0.06$) 以上 b. $\square -90 (\pm 0.5) \sim 1,000 \times 35 (\pm 1.0) \sim 74 \times 31 (\pm 1.0) \sim 75$、厚さ 0.4 ($\pm 0.06$) 以上</p>

項 目	製 品 仕 様
② 下地材	<p>下部ランナー</p> <p>材料名及び規格：前記の上部ランナーと同じ。 形状・寸法 (mm) : a から c のいずれかによる。</p> <p>a. $\square-90 (\pm 0.5) \sim 1,000 \times 35 (\pm 1.0) \sim 75$、厚さ 0.4 ($\pm 0.06$) 以上 b. $\square-90 (\pm 0.5) \sim 1,000 \times 35 (\pm 1.0) \sim 74 \times 31 (\pm 1.0) \sim 75$、厚さ 0.4 ($\pm 0.06$) 以上 c. $\square-90 (\pm 0.5) \sim 1,000 \times 30 (\pm 1.0) \sim 75$、厚さ 0.8 ($\pm 0.08$) 以上</p> <p>取付け方法 上記 c の形状のランナーを用いる場合は間柱(スタッド)の下部をタッピンねじ又はリベットで留付ける。</p>
間柱(スタッド)	<p>材料名及び規格：a から n のいずれかによる。</p> <p>a. 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) b. 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3313) c. 溶融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314) d. 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) e. 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) f. 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) g. 一般構造用軽量形鋼 (JIS G 3350) h. 一般構造用角形鋼管 (JIS G 3466) i. 一般構造用圧延鋼材 (JIS G 3101) j. 熱間圧延軟鋼板 (JIS G 3131) k. 冷間圧延鋼板 (JIS G 3141) l. 熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) (マルテンサイト系、フェライト系に限る) m. 冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) (マルテンサイト系、フェライト系に限る) n. 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通省大臣認定-指定建築材料 : MSTL-0064、MSTL-0069、MSTL-0070、MSTL-0362、MSTL-0395、MSTL-0523)</p> <p>形状・寸法 (mm) : a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. $\square-90 (\pm 0.5) \sim 1,000 \times 45 (\pm 1.0) \sim 75 \times 10 (\pm 2.0) \sim 32$、厚さ 0.4 ($\pm 0.06$) 以上 b. $\square-90 (\pm 0.5) \sim 1,000 \times 45 (\pm 1.0) \sim 1,000$、厚さ 0.4 ($\pm 0.06$) 以上</p> <p>取付け間隔 (mm) : 455 (± 46) 以下</p>
振れ止め(必要に応じて取付け る。)	<p>仕様：あり又はなし</p> <p>材料名及び規格：前記の上部ランナーと同じ。</p> <p>形状・寸法 (mm) : a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. $\square-19 (\pm 1.5) \sim 50 \times 10 (\pm 1.5) \sim 20$、厚さ 0.4 ($\pm 0.06$) 以上 b. $\square-19 (\pm 1.5) \sim 50 \times 10 (\pm 1.5) \sim 20 \times 5 (\pm 1.0) \sim 20$、厚さ 0.4 ($\pm 0.06$) 以上</p>

項目		製品仕様
③ 副構成材料	間柱(スタッド)用スペーサー	<p>仕様：1) 又は 2)</p> <p>1) なし(間柱(スタッド)の形状が□型の場合) 2) あり(間柱(スタッド)の形状が□型の場合)</p> <p>材料名及び規格：a から 1 のいずれかによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) b. 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3313) c. 溶融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314) d. 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) e. 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) f. 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) g. 熱間圧延軟鋼板 (JIS G 3131) h. 冷間圧延鋼板 (JIS G 3141) i. 熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) j. 冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) k. 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通省大臣認定-指定建築材料：MSTL-0064、MSTL-0069、MSTL-0070、MSTL-0362、MSTL-0395、MSTL-0523) l. 上記以外の鋼板 <p>厚さ (mm) : 0.7 (±0.1) 以上</p> <p>取付け間隔 (mm) : 600 (±60) 以下(鉛直方向)</p>
	敷目板(必要に応じて取付け る。)	<p>仕様：あり又はなし</p> <p>種類等：下記のいずれかによる。</p> <p>せっこう板、せっこうボード、強化せっこうボード、不燃積層せっこうボード、纖維強化セメント板、グラスウール(10 kg/m³以上)、ロックウール(10 kg/m³以上)、グラスファイバーフェルト(10 kg/m³以上)又はロックウールフェルト(10 kg/m³以上)</p> <p>寸法 (mm) : 厚さ 1 (±0.1) 以上、幅 40 (±4) 以上</p>
	鋼板(必要に応じて取付け る。)	<p>仕様：あり又はなし</p> <p>材料名及び規格：前記の間柱(スタッド)用スペーサーに同じ。</p> <p>厚さ (mm) : 0.8 (±0.2) 以下</p> <p>大きさ (mm) : 幅 200 (±20) 以下</p> <p>取付け位置：a から c のいずれかによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 間柱(スタッド)表面 b. 敷目板表面 c. 下張り材表面 <p>取付け面積の割合</p> <p>6.7 (±0.7) % 以下(壁面積に対する鋼板の占める割合)</p>

項目	製品仕様
③ 副構成材料	<p>きしみ音防止材 (必要に応じて取付ける。)</p> <p>仕様：あり又はなし 種類等：(1)から(3)のいずれかによる。</p> <p>(1) 粘着剤付テープ 種類：下記のいずれかによる。 ブチルゴム系、アクリル系、シリコーン系、超高分子量ポリエチレン系、ポリエチレン系、ポリ塩化ビニル系、ポリエチレンテレフタレート系、ポリイミド系、ポリカーボネート系、ポリスチレン系、ポリウレタン系、ポリプロピレン系、フッ素樹脂系、ナイロン系、セロハン系、天然ゴム系、合成ゴム系、紙系、布系、金属系又はガラス繊維系 寸法(mm)：厚さ0.5(±0.05)以下 取付け位置：aからiのいずれか、又はaからiの内2つ以上の併用による。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 上下ランナー表面の全面又は一部 b. 間柱(スタッド)上下端50mm部分の表面の全面又は一部 c. 壁左右端部の間柱(スタッド)表面の全面又は一部 d. ランナー用スペーサー表面の全面又は一部 e. 間柱(スタッド)と間柱(スタッド)スペーサーの接触部 f. 間柱(スタッド)と振れ止めの接触部 g. 振れ止めと間柱(スタッド)スペーサーの接触部 h. 間柱(スタッド)と鋼板の接触部 i. 鋼板表面の全面又は一部 <p>※きしみ音防止材を鋼板表面に取付ける場合は、きしみ音防止材、鋼板仮留め用接着剤及び鋼板仮留め用粘着テープ又は両面粘着テープの総使用量は360(±36)g/m²を超えないこと。</p> <p>(2) グラスウール(10kg/m³以上)、ロックウール(10kg/m³以上)、アルカリアースシリケートウール(10kg/m³以上)、グラスファイバーフェルト(10kg/m³以上)又はロックウールフェルト(10kg/m³以上) 寸法(mm)：厚さ0.5(±0.05)以上 取付け位置：前記の(1)に同じ。</p> <p>(3) シーリング材 種類：下記のいずれかによる。 ポリウレタン系、アクリル系、アクリルウレタン系、ポリサルファイド系、ポリイソブチレン系、シリル化アクリレート系、シリコーン系又は変成シリコーン系 取付け位置：前記の(1)に同じ。</p>

項目	製品仕様
③ 副構成材料	<p>留付け材</p> <p>下張り材取付け用 タッピンねじ 寸法 (mm) : $\phi 3.5 (\pm 0.4)$ 以上 $\times L32 (\pm 3.2)$ 以上 留付け間隔 (mm) 鉛直方向 : 300 (± 30) 以下 水平方向 : 間柱 (スタッド) の取付け間隔による (455 (± 46) 以下)</p> <p>上張り材取付け用</p> <ul style="list-style-type: none"> a. ステープル 寸法 (mm) : 幅 4 (± 0.4) 以上、長さ 32 (± 3.2) 以上 留付け間隔 (mm) : 周辺部 100 (± 10) 以下、中間部 200 (± 20) 以下 b. 接着剤 種類 : 下記のいずれかによる。 酢酸ビニル樹脂系、アクリル樹脂系、ウレタン樹脂系、エポキシ樹脂系、ポリアミド系、ポリサルファイド系、シリコーン系、合成ゴム系、せっこう系又は炭酸カルシウム系 塗布量 (g/m²) : 150 (± 15) ~ 900 (± 90) 塗布間隔 (mm) : 周辺部 100 (± 10) 以下、中間部 200 (± 20) 以下 c. タッピンねじ 寸法 (mm) : $\phi 3.5 (\pm 0.4)$ 以上 $\times L32 (\pm 3.2)$ 以上 <p>取付け方法 上記 a と b で下張り材に取付け、必要に応じて c を併用して、間柱 (スタッド) 又は鋼板に取付ける。</p> <p>間柱 (スタッド) の L 形下部ランナーへの取付け用 仕様 : 1) 又は 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) なし 2) あり (L 形下部ランナーを用いる場合) <ul style="list-style-type: none"> a. タッピンねじ 寸法 (mm) : $\phi 4.0 (\pm 0.4)$ 以上 $\times L13 (\pm 1.3)$ 以上 b. リベット 寸法 (mm) : $\phi 1.6 (\pm 0.2)$ 以上 <p>取付け方法 上記 a 又は b のいずれかで L 形下部ランナーに取付ける。</p> <p>敷目板仮留め用 仕様 : 1) 又は 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) なし 2) あり (敷目板を使用する場合) <ul style="list-style-type: none"> a. タッピンねじ 寸法 (mm) : $\phi 2.0 (\pm 0.2)$ 以上 $\times L10 (\pm 1)$ 以上 b. 粘着テープ又は両面粘着テープ 粘着材の種類 : 下記のいずれかによる。 アクリル樹脂系、ポリアミド系、ウレタン系、シリコーン系、天然ゴム系又は合成ゴム系 寸法 (mm) : 厚さ 3 (± 0.3) 以下、幅 75 (± 7.5) 以下 <p>c. 接着剤 種類 : 前記の上張り材取付け用接着剤と同じ。 塗布量 (g/m²) : 600 (± 60) 以下</p> <p>取付け方法 上記 a から c のいずれかで間柱 (スタッド)、上部ランナー又は下部ランナーに取付ける。</p>

つづく

つづき

項 目		製 品 仕 様
③ 副構成材料	留付け材	<p>鋼板仮留め用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (鋼板を用いる場合) 種類等：a から e のいずれかによる。</p> <p>a. 接着剤 種類：前記の上張り材取付け用接着剤に同じ。 塗布量 (g/m²) : 360 (±36) 以下</p> <p>b. ステープル 寸法 (mm) : 幅 4 (±0.4) 以上 × 長さ 10 (±1) 以上</p> <p>c. タッピンねじ 寸法 (mm) : φ 2.0 (±0.2) 以上 × L10 (±1) 以上</p> <p>d. 粘着テープ又は両面粘着テープ 粘着材の種類：前記の敷目板仮留め用粘着テープ又は両面粘着テープに同じ。 質量 (g/m²) : 360 (±36) 以下</p> <p>e. リベット 寸法 (mm) : φ 1.6 (±0.2) 以上</p> <p>※きしみ音防止材を鋼板表面に取付ける場合は、きしみ音防止材、鋼板仮留め用接着剤及び鋼板仮留め用粘着テープ又は両面粘着テープの総使用量は 360 (±36) g/m² を超えないこと。</p> <p>取付け方法 上記 a から e のいずれかで間柱 (スタッド)、敷目板又は下張り材に取付ける。</p>
	上張り材目透かし部処理材	<p>仕様：1) 又は 2) 1) なし (上張り材が突付け張りの場合) 2) あり (上張り材が目透かし張りの場合) 種類：(1) から (3) のいずれか、又は (1) から (3) の内2つ以上の併用による。</p> <p>(1) シーリング材 種類：下記のいずれかによる。 ポリウレタン系、アクリル系、アクリルウレタン系、ポリサルファイド系、ポリイソブチレン系、シリル化アクリレート系、シリコーン系又は变成シリコーン系</p> <p>(2) ロックウール板 種類、規格等：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 不燃材料認定番号 NM-2615 密度 (kg/m³) : 200 (±20)</p> <p>b. ロックウール、ロックウール保温板、ロックウールフェルト 密度 (kg/m³) : 100 (±10) 以上</p> <p>(3) せっこう系、炭酸カルシウム系 充てん厚さ (mm) : 10 (±1) 以上</p>

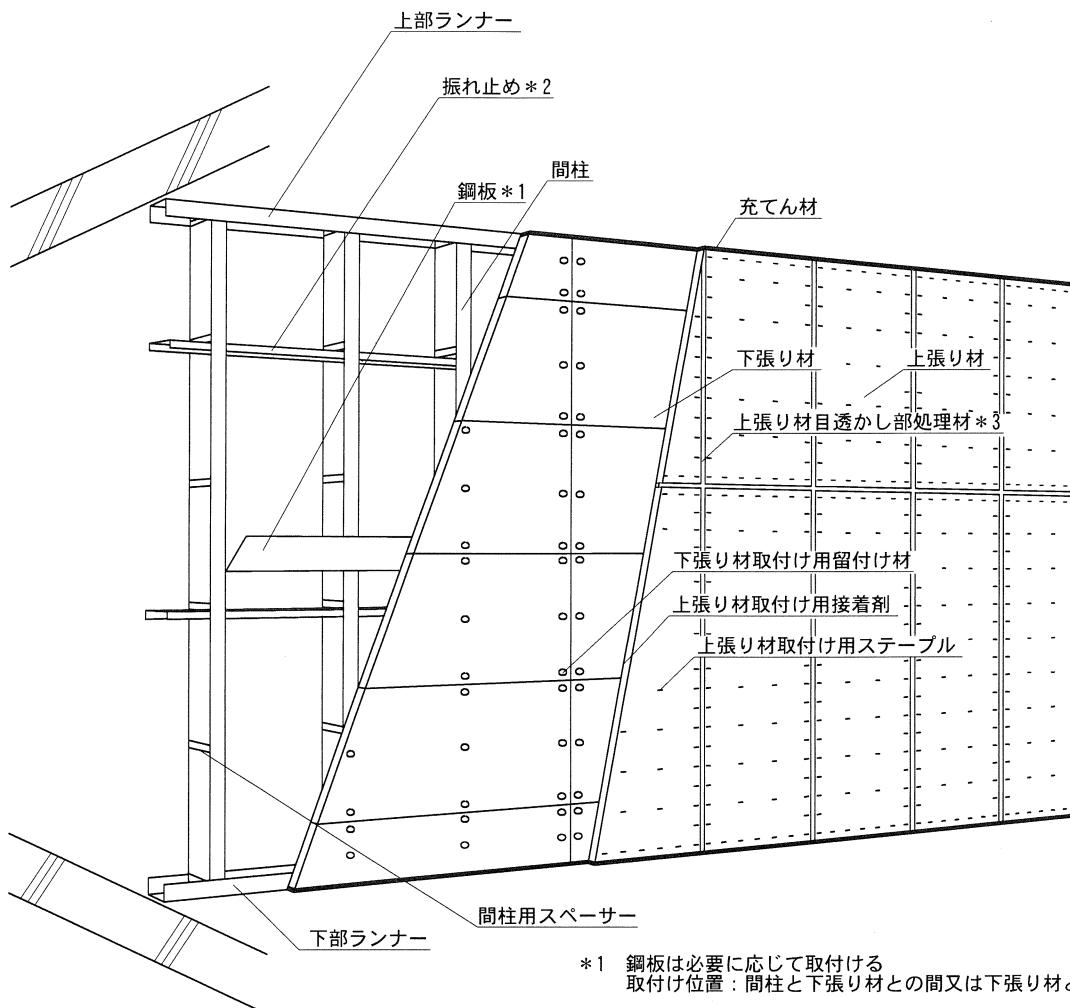
項目	製品仕様
③副構成材料	<p>上張り材目地部処理材（必要に応じて取付け る。）</p> <p>仕様：あり又はなし 種類及び規格：a から c のいずれか、又は a から c のうち 2 種類以上の組み合 せによる。</p> <p>a. パテ処理材 種類：せっこうボード用目地処理材 (JIS A 6914)、合成樹脂エマルションパ テ (JIS K 5669)、せっこう系、炭酸カルシウム系又は合成樹脂系 塗布量 (g/m²) : 10 (±1) 以上</p> <p>b. テープ 種類：ガラス繊維テープ、樹脂製テープ又は紙テープ 寸法 (mm) : 厚さ 0.05 (±0.01) 以上、幅 20 (±2) 以上</p> <p>c. 金属製ジョイナー 種類及び規格：下記のいずれかによる。 • 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) • 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3312) • 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3313) • 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) • 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3318) • 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) • 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3322) • 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) • 熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) • 冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) • ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744) • 上記以外の鋼板 • 上記以外のステンレス鋼板 • アルミニウム板 厚さ (mm) : 0.2 (±0.02) 以上 形状：H 形等</p>
下張り材目地部 等処理材（必要 に応じて取付け る。）	<p>仕様：あり又はなし 種類及び規格：a から c のいずれか、又は a から c のうち 2 種類以上の組み合 せによる。</p> <p>a. パテ処理材 種類：せっこうボード用目地処理材 (JIS A 6914)、合成樹脂エマルションパ テ (JIS K 5669)、せっこう系、炭酸カルシウム系又は合成樹脂系 塗布量 (g/m²) : 10 (±1) 以上</p> <p>b. テープ 種類：ガラス繊維テープ、樹脂製テープ、紙テープ又は金属製テープ 寸法 (mm) : 厚さ 0.05 (±0.01) 以上、幅 10 (±1) 以上</p> <p>c. シーリング材 種類：下記のいずれかによる。 ポリウレタン系、アクリル系、アクリルウレタン系、ポリサルファイド 系、ポリイソブチレン系、シリル化アクリレート系、シリコーン系又は変 成シリコーン系</p>

項 目	製 品 仕 様
③ 副構成材料	<p>壁端部(柱・はり等との取り合い部)の仕様及びその処理材(充てん材)</p> <p>下張り材又は上張り材のどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける場合は、それぞれの目透かし幅は 10(±1)mm 以下とする。下張り材及び上張り材の目透かし部には、次の a から c のいずれかを充てんする。必要に応じて d を併用する。</p> <p>充てん厚さは、下張り材は 21(±2.1)mm 以上、上張り材は 21(±2.1)mm 以上とする。</p> <p>a. シーリング材 種類：下記のいずれかによる。 ポリウレタン系、アクリル系、アクリルウレタン系、ポリサルファイド系、ポリイソブチレン系、シリル化アクリレート系、シリコーン系又は変成シリコーン系</p> <p>b. ロックウール、ロックウール保溫板、ロックウールフェルト、ロックウールモルタル、グラスファイバーフェルト 密度 (kg/m³) : 10(±1) 以上</p> <p>c. せっこう系、炭酸カルシウム系、無機質系</p> <p>d. テープ 種類：ガラス纖維テープ又は金属製テープ 寸法 (mm) : 厚さ 0.05(±0.01) 以上、幅 10(±1) 以上</p>

4. 構造説明図

(1) 透視図

(単位: mm)

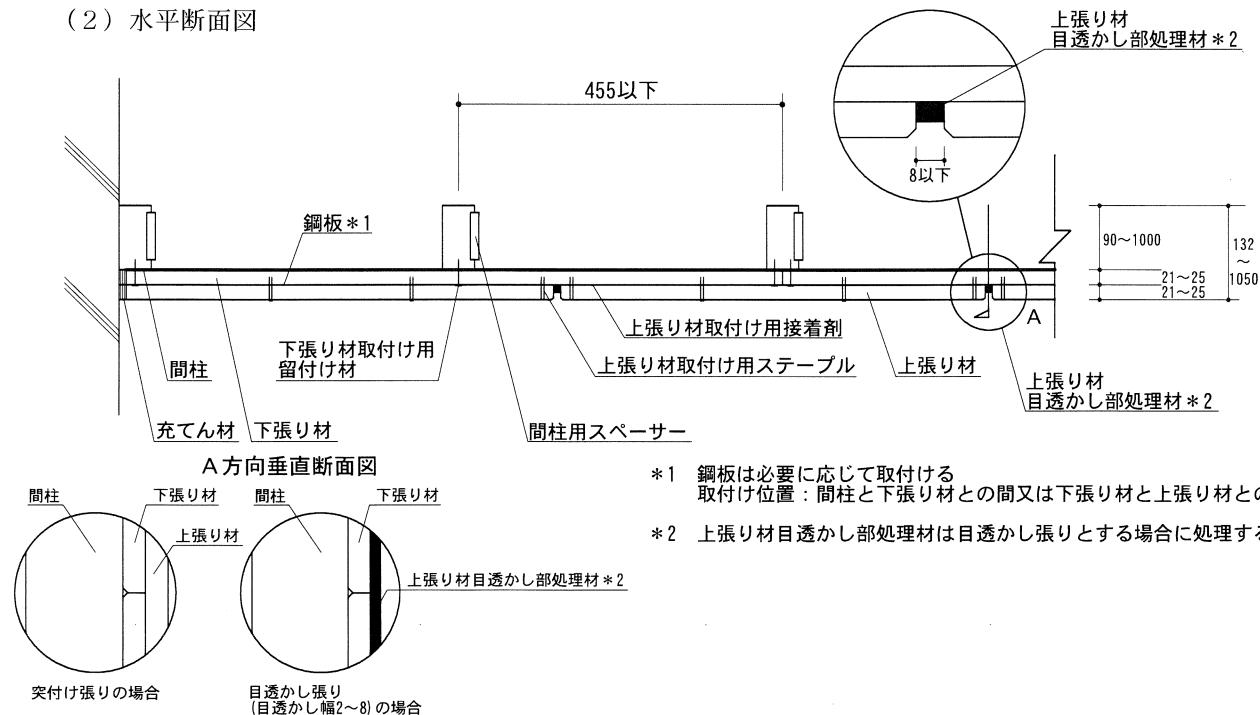


*1 鋼板は必要に応じて取付ける
取付け位置: 間柱と下張り材との間又は下張り材と上張り材との間

*2 振れ止めは必要に応じて取付ける

*3 上張り材目透かし部処理材は目透かし張りとする場合に設ける

(2) 水平面図



*1 鋼板は必要に応じて取付ける
取付け位置: 間柱と下張り材との間又は下張り材と上張り材との間

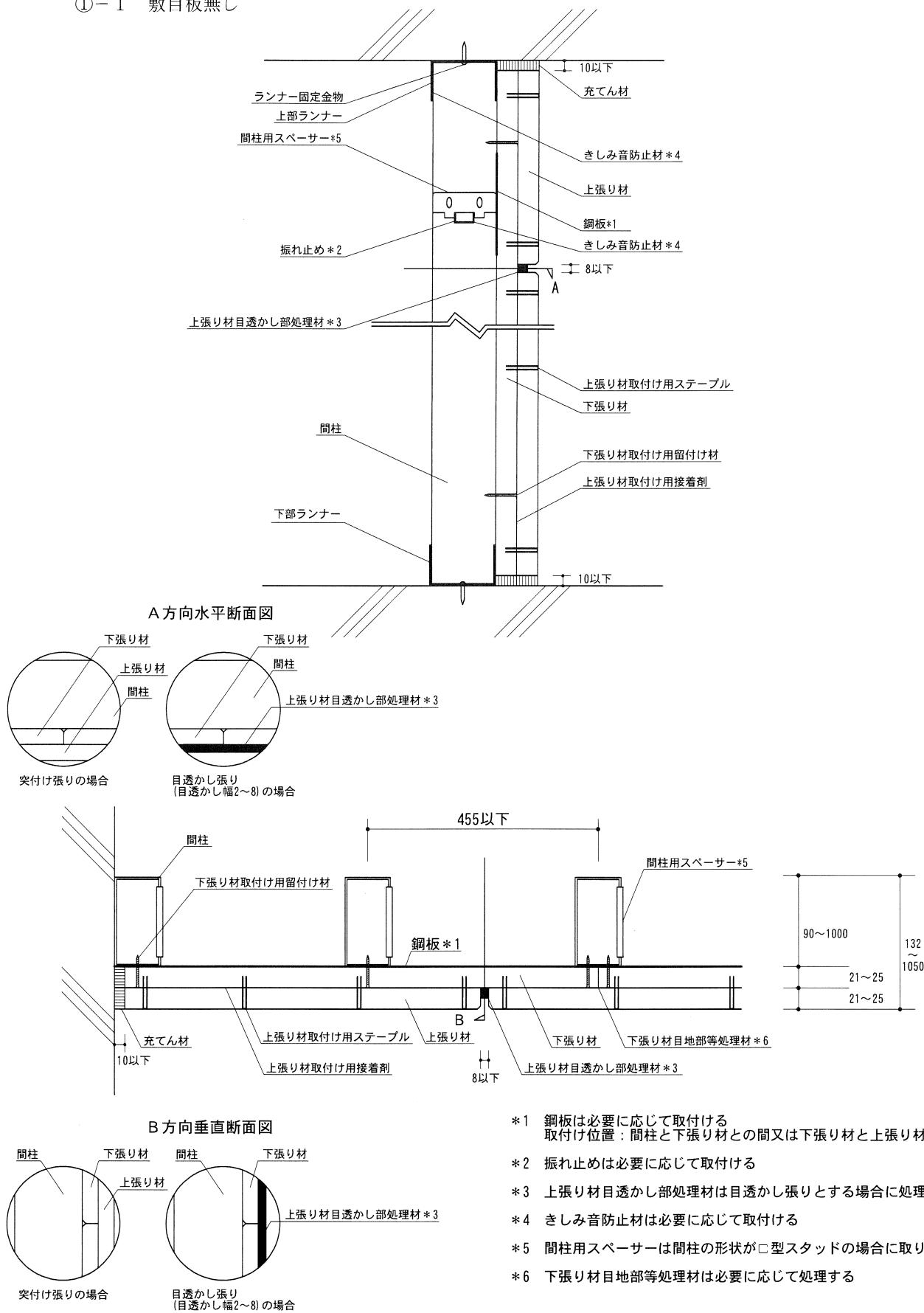
*2 上張り材目透かし部処理材は目透かし張りとする場合に処理する

(3) 断面詳細図

(単位: mm)

①下部ランナーが□形又は△形の場合

①-1 敷目板無し

*1 鋼板は必要に応じて取付ける
取付け位置: 間柱と下張り材との間又は下張り材と上張り材との間

*2 振れ止めは必要に応じて取付ける

*3 上張り材目透かし部処理材は目透かし張りとする場合に処理する

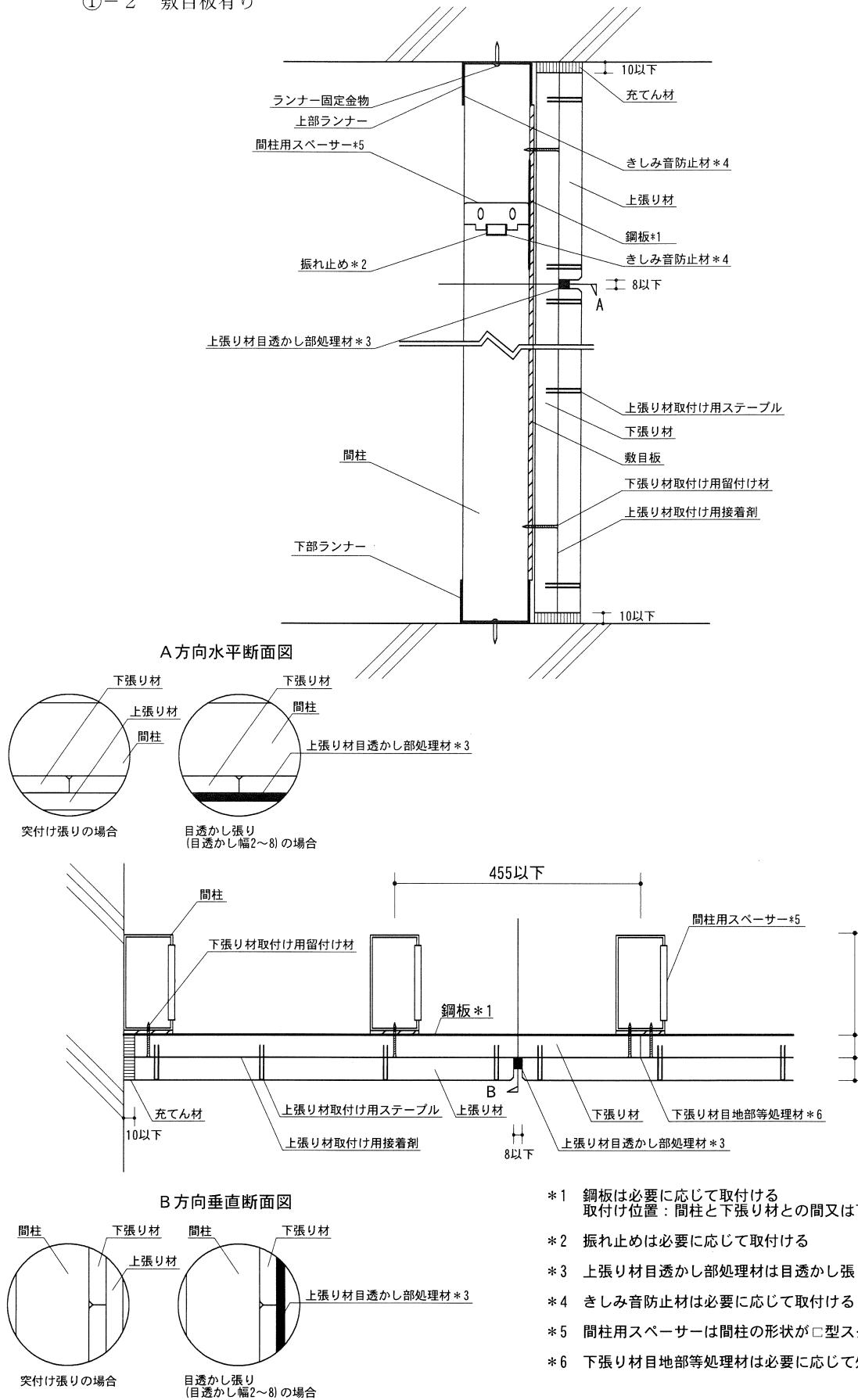
*4 きしみ音防止材は必要に応じて取付ける

*5 間柱用スペーサーは間柱の形状が□型スタッドの場合に取り付ける

*6 下張り材目地部等処理材は必要に応じて処理する

(単位 : mm)

①-2 敷目板有り

*1 鋼板は必要に応じて取付ける
取付け位置: 間柱と下張り材との間又は下張り材と上張り材との間

*2 振れ止めは必要に応じて取付ける

*3 上張り材目透かし部処理材は目透かし張りとする場合に処理する

*4 きしみ音防止材は必要に応じて取付ける

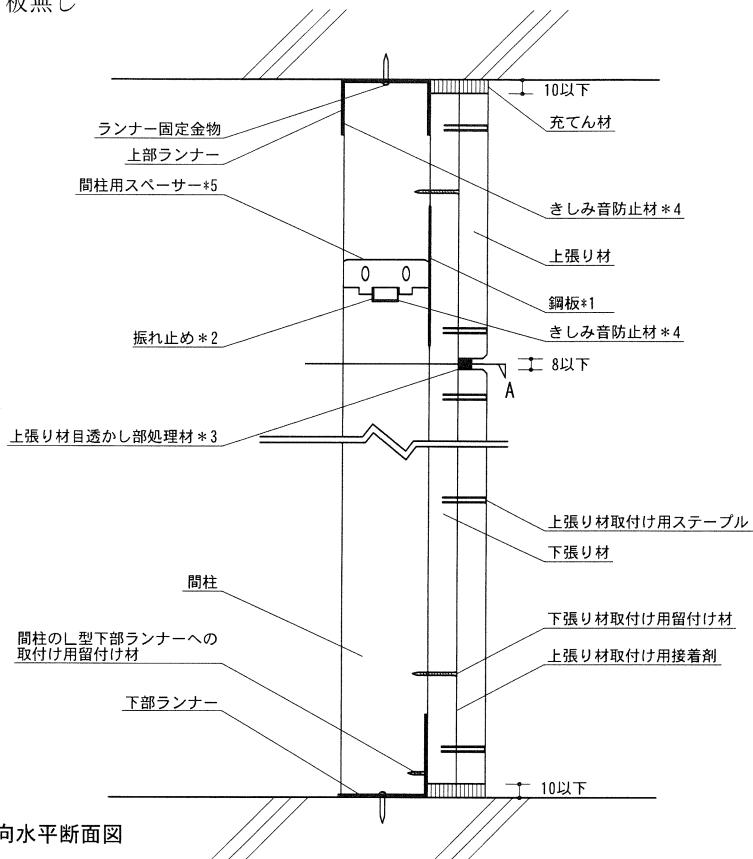
*5 間柱用スペーサーは間柱の形状が□型スタッドの場合に取り付ける

*6 下張り材目地部等処理材は必要に応じて処理する

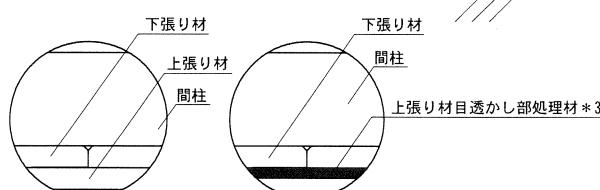
(単位: mm)

②下部ランナーがL形の場合

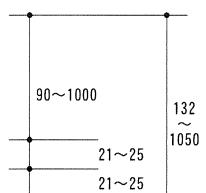
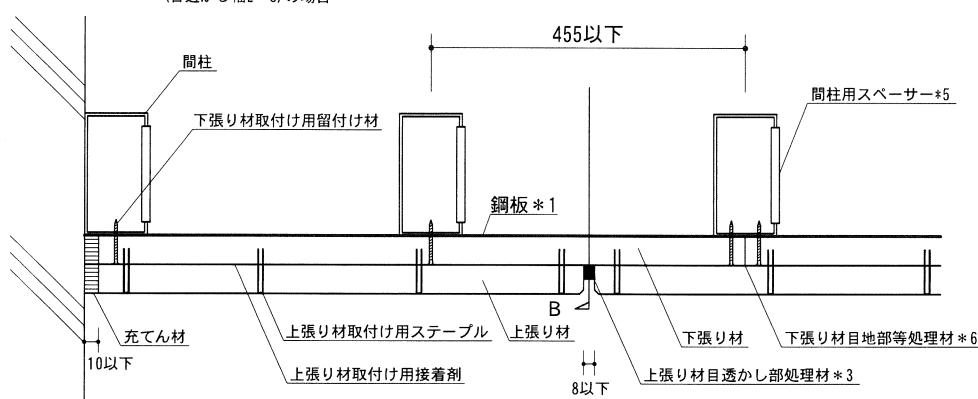
②-1 敷目板無し



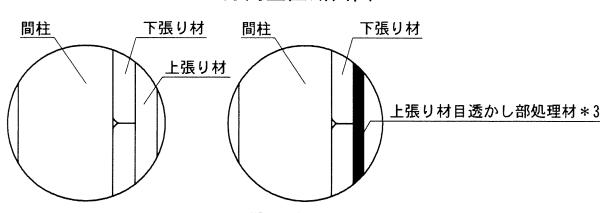
A方向水平断面図



突付け張りの場合

目透かし張り
(目透かし幅2~8) の場合

B方向垂直断面図



突付け張りの場合

目透かし張り
(目透かし幅2~8) の場合*1 鋼板は必要に応じて取付ける
取付け位置: 間柱と下張り材との間又は下張り材と上張り材との間

*2 振れ止めは必要に応じて取付ける

*3 上張り材自透かし部処理材は目透かし張りとする場合に処理する

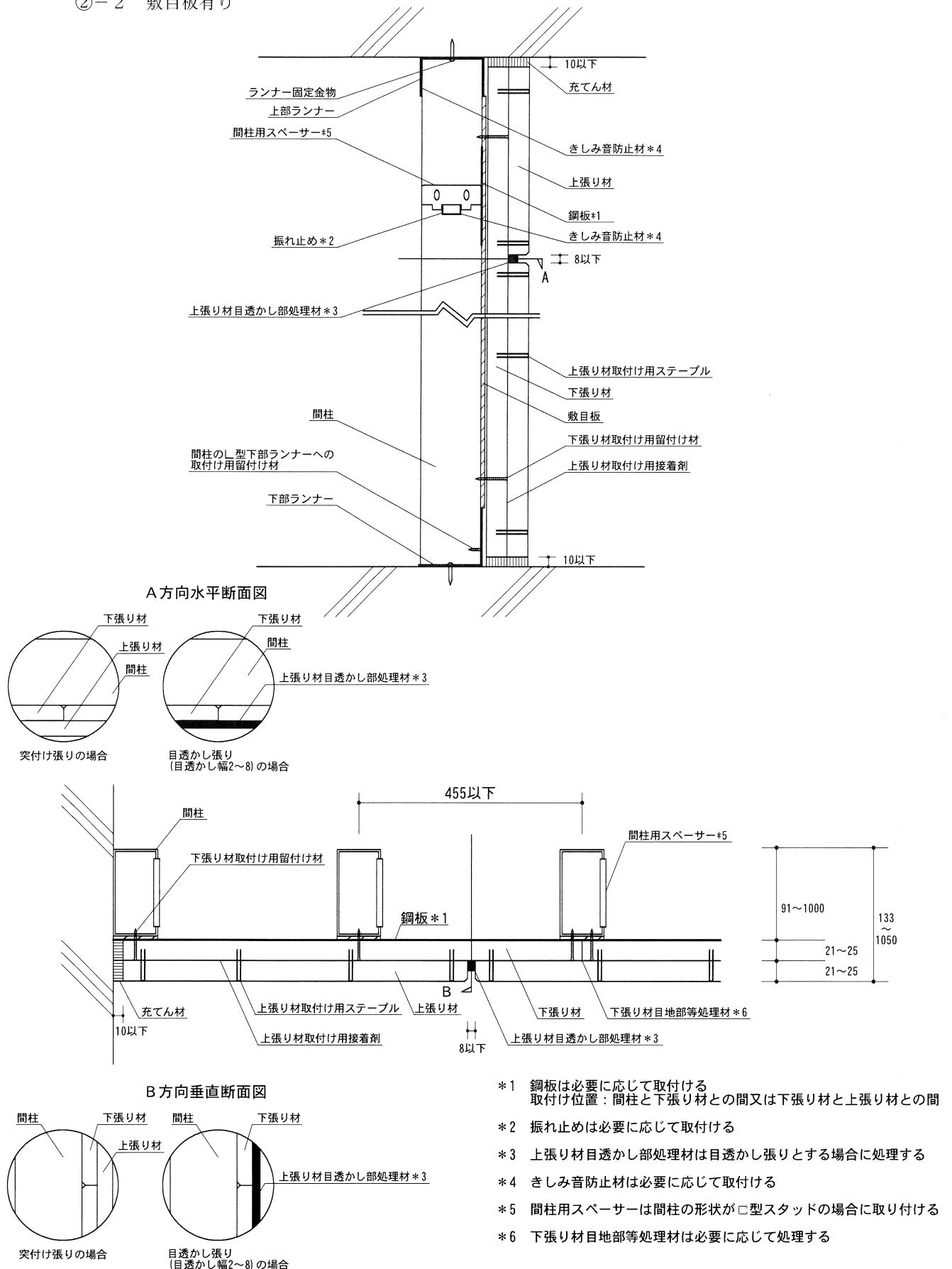
*4 きしみ音防止材は必要に応じて取付ける

*5 間柱用スペーサーは間柱の形状がU型スタッドの場合に取り付ける

*6 下張り材自地部等処理材は必要に応じて処理する

(単位: mm)

②-2 敷目板有り



5. 施工方法

(1) 上部及び下部ランナーの取付け

上部及び下部ランナー(以下、上下ランナーという)を取付ける位置に墨出しを行う。上下ランナーは、軸体にランナー固定金物(打込みピン、ボルト、ねじ、くぎ等)、或いは溶接等にて必要に応じてランナー受けピース等を介して、900(±90)mm以下の間隔で取付ける。必要に応じて、きしみ音防止材を上下ランナー表面に取付ける。

(2) 間柱(スタッド)の取付け

間柱(スタッド)をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、455mm以下の間隔で上下ランナーに差し込んで取付ける。上部ランナーと間柱(スタッド)との間のクリアランスは10(±2)mm以上確保する。なお、下部ランナーにL形ランナーを用いる場合は、間柱(スタッド)の下部をφ4mm以上×L13mm以上のタッピンねじ又はφ1.6mm以上のリベットでL形ランナーに取付ける。必要に応じて、きしみ音防止材を間柱(スタッド)上下端50mm部分の表面等に取付ける。

□形タイプの間柱(スタッド)を使用する場合は、そのフランジ相互に、間柱(スタッド)用スペーサーを挿入する。必要に応じて、きしみ音防止材を間柱(スタッド)と間柱(スタッド)用スペーサーの接触部に取付ける。

(3) 振れ止めの取付け

必要に応じて、振れ止めをあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、間柱(スタッド)の側面の切欠き部に差し込んで取付ける。必要に応じて、きしみ音防止材を間柱(スタッド)と振れ止めの接触部、振れ止めと間柱(スタッド)用スペーサーの接触部に取付ける。

(4) 鋼板の取付け(間柱(スタッド)と敷目板又は下張り材との間に取付ける場合)

必要に応じて、鋼板を間柱(スタッド)と敷目板又は下張り材との間に使用する場合は、あらかじめ現場の寸法に合わせて切断した鋼板を間柱(スタッド)に接着剤、タッピンねじ、粘着テープ、両面粘着テープ又はリベットで取付ける(必要に応じて鋼板に下穴を開ける)。必要に応じて、きしみ音防止材を間柱(スタッド)と鋼板の接触部に取付ける。

(5) 敷目板の取付け

必要に応じて、敷目板をタッピンねじ、粘着テープ、両面粘着テープ又は接着剤で間柱(スタッド)又は上下ランナーに仮留めする。

(6) 鋼板の取付け(敷目板と下張り材との間に取付ける場合)

必要に応じて、鋼板を敷目板と下張り材との間に使用する場合は、あらかじめ現場の寸法に合わせて切断した鋼板を敷目板の表面に接着剤、タッピンねじ、粘着テープ又は両面粘着テープで取付ける(必要に応じて鋼板に下穴を開ける)。

(7) 下張り材の取付け

下張り材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、縦又は横張りにして、ボード表面を間柱(スタッド)に向けてφ3.5mm以上×L32mm以上のタッピンねじで鉛直方向300mm以下、水平方向455mm以下(間柱(スタッド)の取付け間隔による)の間隔で間柱(スタッド)に留付ける。

目地部及びタッピンねじ留付け部は、必要に応じて下張り材目地部等処理材で処理する。

(8) 鋼板の取付け(下張り材と上張り材との間に取付ける場合)

必要に応じて、鋼板を下張り材と上張り材との間に使用する場合は、あらかじめ現場の寸法に合わせて切断した鋼板を下張り材の表面に接着剤、ステープル、タッピンねじ、粘着テープ又は両面粘着テープで取付ける(必要に応じて鋼板に下穴を開ける)。必要に応じて、きしみ音防止材を鋼板表面に取付ける。

(9) 上張り材の取付け

上張り材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断する。接着剤の塗布間隔は周辺部100mm以下、中間部200mm以下とし、接着剤の塗布量は150~900g/m²とする。

上張り材は、縦又は横張りにして、その目地が下張り材の目地と重ならないよう、また、目地部を突付け張りとする場合は、相互の上張り材を突付け、目透かし張りとする場合は目透かし幅が2~8mmとなるよう配置し、幅4mm以上、長さ32mm以上のステープルで周辺部100mm以下、中間部200mm以下の間隔で下張り材に取付ける。ただし、鋼板を下張り材表面に取付ける場合は、鋼板の取付け部分はステープルを取付けなくてもよい。

必要に応じて、タッピンねじで間柱(スタッド)又は鋼板に留付ける。

目地部を突付け張りとした際には、必要に応じて上張り材目地部処理材で処理する。

目地部を目透かし張りとした際には、上張り材目透かし部処理材で処理する。

(10) 壁端部の処理

下張り材又は上張り材のどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける場合は、目透かし幅を 10 mm 以下とする。目透かしを設けた場合の下張り材及び上張り材の目透かし部には、処理材(充てん材)を充てんする。必要に応じて処理材(テープ)を併用する。充てん厚さは、下張り材、上張り材共に 21 mm 以上とする。